

伯方塩業株式会社

安全・安心で美味しい塩を作り、環境保全にも貢献

ポイント

- ・伯方の塩 粗塩のCFP算定を実施
- ・CFPの詳細分析を行い、排出量のボトルネックを特定し、削減に活用
- ・海洋資源の保全を目的としたアマモ場再生活動を実施

※ CFP : Carbon Footprint of Productsの略。

会社概要



創業 : 1973年（昭和48年）
本社所在地 : 松山本社
愛媛県松山市大手町2丁目3-4
従業員数 : 164名（2025年4月現在）
事業内容 : 塩の製造及び販売

製品紹介

製品名称 : 伯方の塩 粗塩
用途 : 各種料理
特徴・強み : 塩かどがなく、ほんのりと甘みを感じる塩
食材本来のうま味を引き出す



● 環境PRポイント

包装素材にバイオマスフィルムを使用し、石油由来のCO2排出量を削減

「伯方の塩 スタンドパック200g」の包装素材をバイオマスフィルムに置き換えています。置き換えることで従来の石油由来フィルムと比較してCO2の排出量を約16%削減(※)することができます。



年間

約 **340** kg

(2022年1月～12月 当社売上比)

CO2排出量

約 **16** % 削減

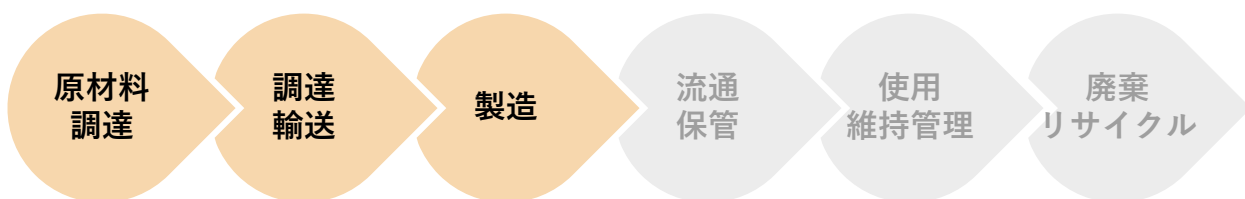
※大日本印刷株式会社がライフサイクルアセスメント手法に基づき試算した値

● 製品カーボンフットプリント算定

粗塩1kgのCFPを算定し、製造におけるCO2排出のボトルネックを特定

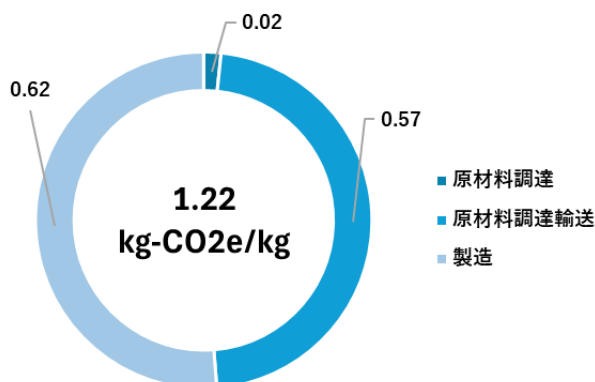
伯方の塩 粗塩について、メキシコまたはオーストラリアの天日塩田塩など原材料の調達から製造までの範囲のCFPを算定し、「1.22 kg-CO2e/kg」と算定されました。

最も排出量の比率が大きい製造段階を詳細に分析し、ボイラーで使用するA重油による排出量が多いことを特定しました。ボトルネックとなっていたボイラーのA重油は、既にLNGに変換をしており、燃料転換によるCO2排出量削減を推進しています。



自社の生産工場を出るまでを評価範囲としてCFPを算出

CFP算定結果（粗塩1kg）

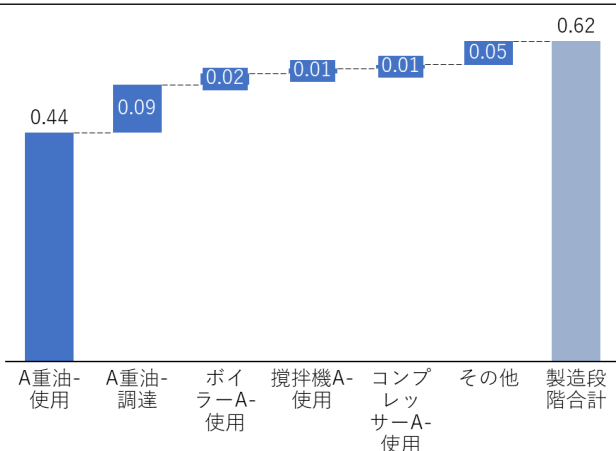


粗塩1kgのCFPを算定

伯方塩業の代表製品である粗塩について、CFPを算定しました。

海外から調達する天日塩田塩の輸送に伴う排出と製造段階の排出が多くを占めています。

CFP分析結果：製造段階（上位5項目）



200項目以上を詳細分析

粗塩を生産する製造段階における設備や燃料を分類すると200項目以上あります。

各設備の定格出力や稼働時間なども加味して分析することで、ボトルネックはボイラーによるA重油使用であることが明確になりました。

※ CFP：商品やサービスのライフサイクルを通して排出される温室効果ガスの排出量をCO2に換算したものの、Carbon Footprint of Productsの略。

※ 算定結果は外部支援に基づき独自に実施したもので、第三者認証に基づく情報ではありません。

● CO2排出量削減の取り組み

アマモ場再生活動を通じて、CO2排出量削減と海洋資源の保全を目指す

現在、伯方塩業の工場があるしまなみ海域に限らず全国的に海藻や海草が減少しています。伯方塩業は自社工場近くの海におけるアマモの増加と保全を目的に、種まき活動と育成状況の確認を行っています。

アマモは光合成によるCO2吸収や魚が住みやすい環境作りにつながるなど、アマモが増えることはCO2排出量削減と海洋資源の保護につながります。

また、本活動には地域の高校生を招くなど、地域での環境保全への啓発活動にも取り組んでいます。



画像：東京海上日動 アマモの基礎知識

アマモとは

アマモは光が届く浅い海底に花を咲かせて種子をつくる海草(うみくさ)です。光合成によってCO2を吸収し、栄養素から有機物を作り出すとともに酸素を供給します。

アマモは、発芽率が10%未満ととても難しくデリケートな植物です。



アマモ再生活動

伯方塩業社員が育成したアマモの種子を、水を含むと粘土状になる赤土に混ぜ込み海へ投げ込みます。

アマモの育成状況を定期的に確認したり、アマモの重要性・現状発信をすることで豊かな海を守る活動を今後も継続していきます。

● 環境貢献に取り組む社員の思い



海藻など藻場は、CO2を吸収・蓄積する主要な吸収源で、ブルーカーボンにはなくてはならない存在です。

海岸清掃を実施し、海岸に漂着するプラスチックごみ等が藻場を覆い光合成を阻害しないよう、健康な海洋生態系を維持する活動に取り組んでいます。